

# 自然林を分布の中心とするコブヤハズカミキリ類

宮下泰典<sup>1</sup>・白須英樹<sup>1</sup>・渡辺通人<sup>2</sup>

## 調査目的

コブヤハズカミキリ類は、後翅が退化しており、さらに上翅が会合部で癒着しているため飛翔ができないカミキリムシのグループで、日本国内ではコブヤハズカミキリ属 *Mesechthistatus* のコブヤハズカミキリ *M. binodosus*、フジコブヤハズカミキリ *M. fujisanus*、マヤサンコブヤハズカミキリ *M. furciferus*、タニグチコブヤハズカミキリ *M. taniguchii* の4種に、セダカコブヤハズカミキリ属 *Parechthistatus* のセダカコブヤハズカミキリ *P. gibber*、ヤクシマコブヤハズカミキリ属 *Hayashiechthistatus* のヤクシマコブヤハズカミキリ *H. inexpectus* を加えた3属6種が知られている(高桑 1987)。

富士山ではこの中のフジコブヤハズカミキリとセダカコブヤハズカミキリの2種の生息が確認されている(甲州昆虫同好会 1986)。フジコブヤハズカミキリのフジは富士山のことであり、富士山に由来する和名・学名を持つ種類の一つである。

コブヤハズカミキリ類は、糸魚川—静岡構造線など地史との繋がりが強く遺存的性格も強いと考えられる一方、マヤサンコブヤハズカミキリとセダカコブヤハズカミキリ、タニグチコブヤハズカミキリとセダカコブヤハズカミキリ、フジコブヤハズカミキリとセダカコブヤハズカミキリそれぞれの雑種とみなされる個体がみつき(高桑 1987)、種だけでなく属まで含んだ分類の面でも注目されているグループである。

このような特殊な形態的な特徴を持つと同時に、生態的にも他のカミキリムシ類に比べて特異な生活様式を持つグループでもあり、富士山の昆虫群集の特徴・生成過程やその歴史、その変化や今後の動態の予想をする鍵を握るグループと考

え、コブヤハズカミキリ類2種の分布・生態調査を重点的に行なった。

## 調査方法

フジコブヤハズカミキリとセダカコブヤハズカミキリとの種間関係に特に着目して、過去に記録されている地域を中心に、広く富士山北部地域一帯で同じ様な環境を持つ未記録地での発見に努力した。

両種ともに、成虫は秋口に出現し、枯葉を後食した後、そのまま成虫で越冬し、翌春に越冬から目覚めた個体が春から夏にかけて枯れ木に産卵し、子孫を残すという生態を持つと考えられている(高桑 1987 など)が、時に秋口に新個体に混じって旧個体が得られる事がある。そこで春から夏季は、他のカミキリムシ類や他の昆虫類の調査時に、主としてビーティング法(枯葉をたたいて隠れているあるいは後食中の成虫をビーティング・ネットに落とす方法)で確認された個体を記録したが、新成虫が出現し枯葉を後食する秋口には、トラップ法(ハンノキあるいはヤマハンノキの枝を葉のついたまま半乾燥させ、それを10本程度束ねたもの、または、近くにあったヤマブドウの枯葉をトラップとして、シラビソなどの高さ1m程の枝上に置いておき、定期的に見回する方法)を併用した。

## 調査日および調査者

調査日および調査者は以下のとおりである。合計62日間で他の昆虫類の調査と並行して調査を行なった。

2001年	8月	3日	白須
	8月	9日	渡辺
	8月	10日	渡辺
	8月	12日	渡辺
	8月	19日	渡辺
	8月	23日	白須・宮下・渡辺
	8月	27日	渡辺

<sup>1</sup> 甲州昆虫同好会

<sup>2</sup> 河口湖町自然共生研究室・NPO 富士自然保護研究所・甲州昆虫同好会

8月 29日 渡辺  
 9月 2日 白須・宮下  
 9月 4日 渡辺  
 9月 8日 宮下  
 9月 10日 白須  
 9月 16日 宮下・白須・渡辺  
 9月 17日 白須  
 9月 27日 渡辺  
 10月 7日 宮下  
 10月 12日 渡辺  
 10月 13日 宮下  
 10月 20日 渡辺  
 2002年 4月 29日 渡辺  
 5月 6日 宮下・渡辺  
 5月 14日 宮下・渡辺  
 5月 22日 渡辺  
 5月 25日 白須  
 5月 27日 宮下  
 5月 30日 渡辺  
 6月 2日 渡辺  
 6月 6日 渡辺  
 6月 28日 渡辺  
 6月 30日 渡辺  
 7月 2日 渡辺  
 7月 4日 白須・渡辺  
 7月 7日 渡辺  
 7月 9日 渡辺  
 7月 12日 渡辺  
 7月 14日 渡辺  
 7月 16日 渡辺  
 7月 18日 渡辺  
 7月 20日 渡辺  
 7月 23日 宮下・渡辺  
 7月 26日 渡辺  
 7月 27日 宮下  
 7月 28日 渡辺  
 7月 29日 渡辺  
 8月 1日 渡辺  
 8月 2日 渡辺  
 8月 3日 宮下  
 8月 11日 渡辺  
 8月 12日 渡辺  
 8月 13日 渡辺  
 8月 14日 渡辺  
 8月 15日 渡辺  
 8月 17日 渡辺

8月 25日 渡辺  
 9月 1日 渡辺  
 9月 10日 渡辺  
 9月 20日 渡辺  
 9月 28日 宮下  
 9月 29日 渡辺  
 10月 14日 渡辺  
 10月 25日 渡辺  
 11月 4日 宮下

## 結果

### フジコブヤハズカミキリ

過去には西部の4地域が主な産地として知られていただけで(甲州昆虫同好会 1986、白須 1986、宮下 1999、宮下 2001)、3次メッシュにするに隣接した4メッシュのみが既知産地であった。

今回の調査でこれまでの周辺地域でも確認されると同時に、過去に記録のなかった北西部や北東部の3地区でも確認することができ、新たに9メッシュが加わり富士山北部地域における本種の分布状況をおおよそ掴めるようになったと考えている。

本種の富士山北部地域における分布は、西半分はその中心域があり、記録地点も個体数(白須 1986)も多い。それに対して、東半分はこれまで全く記録されていなかった。それは、東半分は生息地も個体数も少なかったからと考えられる。

### セダカコブヤハズカミキリ

過去の公式記録は、西部の2地区で別々に1頭づつ採集された4♂1♀の記録があっただけであった(甲州昆虫同好会 1986、宮下 1999)。

今回の調査で、新たに北西部の自然林で2♂、1不明を採集することが出来たが、既知の西部地区での1♀の記録と合わせても得られたのは4頭のみであった。

これらの記録から、富士山北部地域においては、本種は非常に限定された地域のみで生息し、非常に危機的状況にあることがうかがえる。

## 考察

### フジコブヤハズカミキリとセダカコブヤハズカミキリの関係について

図1に示したように、フジコブヤハズカミキリの分布は、本州中部地方の一部に限られ、富士山

はその南限となる。また、セダカコブヤハズカミキリは、神奈川県西部を東限として西日本を中心に九州まで分布している（高桑 1987）。山梨県における分布の概要は図2のとおりで、富士山には静岡県側を含めて両種が分布している（高桑 1987）。

表1 フジコブヤハズカミキリの確認記録

年月日	性数	国土メッシュ	確認地点	調査
1983/9/19	1♂	5338-05-**	****	甲昆(1986)
1985/9/26	26不明	5338-15-**	****	白須(1986)
1985/9/29	46不明	5338-15-**	****	白須(1986)
1983/10/1	1♂	5338-05-**	****	宮下(1999)
1986/9/26	1♂	5338-05-**	****	宮下(1999)
1986/10/5	2♂2♀	5338-05-**	****	宮下(1999)
1998/9/20	2♂	5338-05-**	****	宮下(1999)
1986/9/26	2♂1♀	5338-15-**	****	宮下(1999)
1986/10/7	1♂	5338-15-**	****	宮下(1999)
1991/10/16	1♂1♀	5338-15-**	****	宮下(1999)
1992/9/23	4♂1♀	5338-15-**	****	宮下(1999)
2000/8/6	1不明	5338-15-**	****	宮下(2001)
2001/9/2	2♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/8	1♂	5338-**-**	****	宮下
2001/9/8	2♂3♀	5338-**-**	****	宮下
2001/9/8	1♂1♀	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	2♂2♀	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	渡辺
2001/9/16	3♂1♀	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	3♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	4♂	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	2♂	5338-**-**	****	渡辺
2001/9/16	2♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	5♂	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	2♂	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	2♂	5338-**-**	****	渡辺
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	1♀	5338-**-**	****	渡辺
2001/9/16	1♂1♀	5338-**-**	****	宮下
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/17	2♂	5338-**-**	****	白須
2001/10/13	1♂1♀	5338-**-**	****	宮下
2001/10/13	1♂1♀	5338-**-**	****	宮下
2002/7/4	2♀	5338-**-**	****	白須
2002/7/24	1不明	5338-**-**	****	篠田授樹
2002/9/27	1不明	5338-**-**	****	宮下雅光
2002/9/28	5♂2♀	5338-**-**	****	宮下

表2 セダカコブヤハズカミキリの確認記録

年月日	性数	国土メッシュ	確認地点	調査
1983/9/1	1♂	5338-05-**	****	甲昆(1986)
1983/10/1	1♂	5338-15-**	****	宮下(1999)
1986/9/7	1♂	5338-05-**	****	宮下(1999)
1986/9/28	1♂	5338-05-**	****	宮下(1999)
1998/9/20	1♀	5338-05-**	****	宮下(1999)
2001/8/14	1不明	5338-**-**	****	篠田授樹
2001/9/2	1♀	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	白須
2001/9/16	1♂	5338-**-**	****	宮下

\*メッシュ番号と確認地点は非公開版のみに掲載した。  
甲昆：甲州昆虫同好会

山梨県側富士山北部地域での垂直分布は、およそフジコブヤハズカミキリが 1,200~1,900m、セダカコブヤハズカミキリが 1,160~1,640mと思われ、セダカコブヤハズカミキリの方が分布が狭いと考えられる。水平分布も、西半分では両種がみられるのに、セダカコブヤハズカミキリの方が得られた地点も個体数も極端に少なく、東半分ではフジコブヤハズカミキリが少数みられるのに、セダカコブヤハズカミキリは得られていない。高桑(1987)は、南アルプスにかぎらず富士山、丹沢、大菩薩山塊などでは、より高標高地にフジコブヤハズなどコブヤハズのグループが、より低標高地にセダカコブヤハズが分布する傾向が認められ、また、コブヤハズ類の分布の接線上に幅約 200m 以上の分布の空白地帯があり、同一場所で 2 種の発見例がないので混生地はないと指摘した。

しかし、富士山北部地域においては、両種の分布範囲に空白地帯は全くなく、セダカコブヤハズカミキリの生息地にはフジコブヤハズカミキリも生息し、両種が同時に採集されたこともあるので、完全に混生地といって良いと考えられる。生息環境も、両種ともに比較的自然度の高い林内に生息しているが、セダカコブヤハズカミキリがブナ・ミズナラなどの混じった原生林およびその周辺に限られているのに対し、フジコブヤハズカミキリはブナ・ミズナラなどの混じった原生林にもみられ個体数も多いが、人工のシラビソ林やカラマツ林にも見られる。

このようなことから、セダカコブヤハズカミキリの生活にはブナ・ミズナラなどの混じった原生林が不可欠であり、セダカコブヤハズカミキリの方が遺存的性格がより強いものと推測される。フジコブヤハズカミキリは、セダカコブヤハズカミキリの生活するブナ・ミズナラなどの混じった原生林を基点としてより周辺の人工林まで分布を広げた結果、セダカコブヤハズカミキリは西側の原生林地帯の一部のみに遺存的に分布し、フジコブヤハズカミキリは西側では個体数も生息地も多いが、東側では生息地・個体数ともに少ないという現在の分布状態になったのではないかと考えられる。このような西側と東側の差が生じたのは、自然度の高さの差と林内の湿度の 2 点が大きく影響しているのではないかと考えられる。すなわち、西側はブナ・ミズナラの原生林をはじめ人工林が入りくんだ環境で自然度が高いと考えら

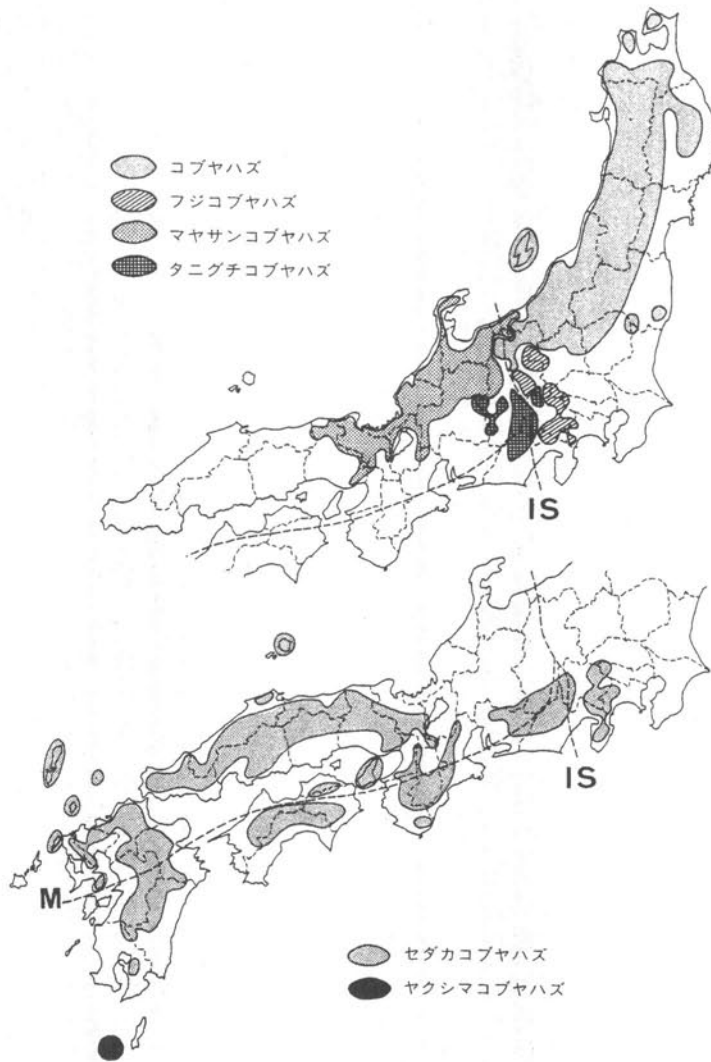


図1 コバヤハズ類の分布図概念 (記録があっても分布的に疑問なものは削除してある)  
 IS:糸魚川—静岡構造線 M:中央構造線 高桑正敏 (1987)

れるのに、東側にはブナの原生林はみられず、人工林がほとんどであること、それに、偏西風などの気候的影響で西側の方が湿度が高くコバヤハズカミキリ類の生息に適していると考えられることの2点である。

いずれにしても、セダカコバヤハズカミキリの分布する地域は、ともにまとまった広がりをもつ自然林に限られていることから、富士山の北部地域の最も自然度の高い地域の指標種ともいえる。また、フジコバヤハズカミキリの分布と比較することによって、例えばいつ頃どちらが先に(あるいは一緒に)富士山に侵入し、その後どのように分布を広げていったのかといった、富士山の地史と

両種の関わりがある程度明らかに出来るのではないかと期待される。

一方、前述のように高桑 (1987) はコバヤハズ類には混生地がないとしたが、富士山北部地域におけるセダカコバヤハズカミキリの3産地は完全に混生地とあって良いと考えられ、過去、芦川村での記録と同様の両種の種間雑種と思われる個体が得られているのも大変興味深い。これは、両種の分類学的な面でも、先程の富士山の地史との関わりでも大きな意味を持つものといえる。

最後に採集データを提供いただいた篠田授樹氏に感謝する。

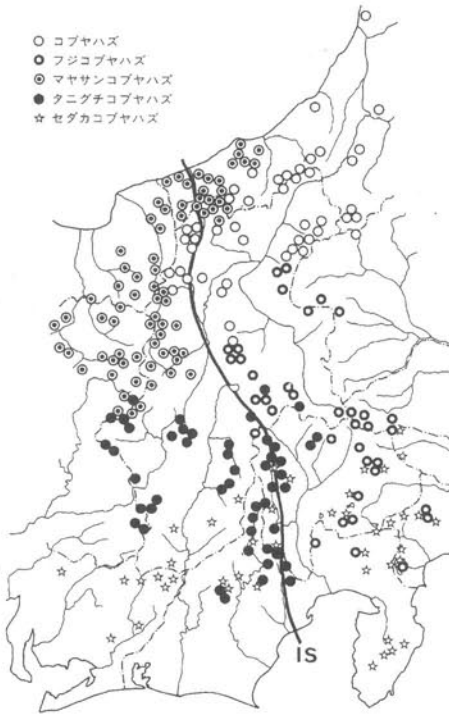


図2 フォッサマグナ帯周辺域のコバヤハズ類の分布  
 (記録があっても分布的に疑問なものは削除してある) IS:糸魚川—静岡構造線 高桑正敏(1987)

文献

富士砂防工事事務所(2001)富士山立体地図 富士火山災害実績マップ.  
 甲州昆虫同好会(1986)山梨県産カミキリムシの記録. 山梨の昆虫 (26) : 685-724.  
 宮下泰典(1999)山梨県のコバヤハズカミキリ 3種の記録. 山梨の昆虫 (43) : 1133-1155.  
 宮下泰典(2001)富士北麓の昆虫. 山梨の昆虫 (45) : 1218.  
 白須英樹(1986)フジコバヤハズカミキリの夜間採集. 山梨の昆虫 (25) : 608  
 高桑正敏(1987)カミキリムシの魅力. 築地書館.